（別添様式４）

令和４年度　学校評価実施報告書

学校名（向島東中学校）

教育目標
未来の世界をたくましく生き抜く学び手の育成

年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況，次年度に向けた見直し 学校改革に取り組み始めて３年が経過したが、生徒や教職員の姿から確実にその成果は表れていると実感できる。それは主観的ではなく学校評価の各項目からも結果として表れている。特に今年度は大半の生徒達が「授業が大切だ」と思い始めており、学習に対する意識は高まってきている。今後も生徒達の思いを真摯に受け止め、更なる授業改善を図っていきたい。また生徒達が主語となる活動の仕掛けも柔軟な発想で行い、生徒同士の「つながり」がより深められるような学校体制を目指していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・「授業改革を核にした学校改革」が確実に進んできており、成果も少しずつ出てきているのを実感しました。 ・今後も教職員が同じ志を持って継続して取り組みを進めていって欲しいと思います。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和４年１１月１８日（金）	学校運営協議会
最終評価	令和５年　３月　２日（木）	学校運営協議会

（１）「確かな学力」の育成に向けて　『学力向上プラン』

重点目標
キャリア形成を軸とした主体的な学びの育成
具体的な取組 ・「主体的な学び合い」を実現する為の“向島東版授業フレーム”を用いた授業実践の充実 ・定例の校内公開授業研究等の実施による授業研究体制の確立 ・GIGA 端末等，ICT を有効に活用した授業実践の充実 ・単元テストの実施による，指導と評価の一体化を目指す ・小中での授業改善に向けた，授業研究のさらなる推進を図るための合同研修の実施 ・道徳を軸としたカリキュラム・マネジメントの推進 ・対話構造の構築を目的とした特別活動の充実 ・学習確認プログラムの分析と，指導との一体化 ・自学自習ノートを活用した，主体性を育むための家庭学習の充実

・　朝の帯時間による，朝読書と認知発達トレーニングの実施
・　毎週部活動動停止日の放課後は「東タイム」と称して補充学習会を実施
・　授業力向上を目指した「教科会」と，「若手・中堅教員実践道場」等による教科横断的な OJT のさらなる推進

（取組結果を検証する）各種指標
・学習確認プログラム・全国学力学習状況調査結果
・学校評価アンケート（生徒質問紙）
　授業や教科の内容が理解できているか。
　授業の中で満足感や達成感が持てているか。
　平日，家庭や塾で１日どれくらい学習しているか。
　平日，家庭や学校で１日どれくらい読書をしているか。
・学校改革に関するアンケート（生徒質問紙）

中間評価

各種指標結果
・全国学力学習状況調査結果　※全国平均に対する指数
（国語：８９．８％，数学：９３．４％，理科：９１．３％）
・授業や教科書の内容が理解できていますか。（肯定評価：７６％）
　※子どもの基本的な学力が身についている。（肯定評価：保護者６６％，教員３４％）
・授業の中で満足感や達成感が持てていますか。（肯定評価：７４％）
・平日，家庭や塾で１日どれくらい学習していますか。（１時間以上：４３％）
・平日，家庭や学校で１日どれくらい読書をしていますか。（３０分以上：２５％）

自己評価

分析（成果と課題）

　授業の理解や満足度に関する指標については，学校改革がスタートし肯定評価値が上昇した昨年度から，横ばいで保っている。これは，学校改革の柱となる授業改革が各教科で進められている成果であると言える。授業改革では，これまで行われてきた一斉教授型から，グループ学習を中心として課題解決する授業形態にすることで，生徒の主体的・対話的で深い学びを目指しており，授業改革が進んでいる教科においては，生徒が自ら学びに向かう姿が見られる。これは全国学力学習状況調査の結果でも，昨年度と比較して指数が１０％上昇している成果からも，生徒の学びの質が変化していることが伺える。

　一方，課題としては，数値的な学力状況から見た生徒の基本的な学力にある。確かに授業改革は推進されてはいるが，全国学力学習状況調査，学習確認プログラムの結果共に，全市平均を下回っている。また，生徒・保護者と教員の間で学力観の認識にギャップがあることも大きな課題である。さらに，学年間や教科で見ると，授業フレームや定期的な校内研究授業により学校体制での授業改革を図ってはいるが，学年や教科，また教員の経験値等により差が生じているという課題もある。授業改善は日々の授業の実践と検証・改善のスモールサイクルで行われていくが，このサイクルにお互いに携わりながらチームとして協働できる体制が今後さらに必要である。

　また，昨年度から定期テストから，日常生活の中で行われる単元テストへ移行して日々の家庭学習習慣が定着することを目指しているが，今回の指標からは学習状況や，読書習慣に関しても依然改善は見られず課題として残る。

	分析を踏まえた取組の改善 　学校改革の学校全体での推進を図っていくためには，日常の教科会や小集団での学力向上チームを機能させるなど，日々の日常の中で協働し，それぞれが改善へと進める体制が必要である。また，家庭学習の充実においては，本校においては，家庭環境など様々な要因により，生徒の主体性だけの問題ではないことは生徒実態からも見られる。今年度から開設した自学自習教室や，水曜放課後の補充の時間を活用しながら，手立てが必要な生徒へのアプローチを行っていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員） 　授業や教科の内容が理解できているか。 　授業の中で満足感や達成感が持てているか。 　平日，家庭や塾で１日どれくらい学習しているか。 　平日，家庭や学校で１日どれくらい読書をしているか。 ・学校改革に関するアンケート（生徒質問紙） 　あなたはこの１年間，授業が良くなったと思いますか。 　単元テストに向けて計画的に勉強に取り組むことができましたか。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・学校評価アンケートの結果にも表れているように、向島東中学校の「授業改革を核にした学校改革」が確実に進んできているのを実感しました。 ・「向島東版授業フレーム」を教職員の中に今後さらに定着させ、学力向上に引き続き取り組んでいってくれることを期待しています。 ・すぐには結果には結びつかないかもしれませんが、「家庭学習の定着」に向けてあきらめず今後も粘り強く取り組んでいってください。 ・生徒の「学力向上委員会」を設置し、生徒と教職員と一緒に「学力向上」に向けての具体的な取り組みを考えていくのもいいのではないでしょうか。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員） 　授業や教科の内容が理解できているか。（肯定評価：生徒８０％） 　子どもの基本的な学力が身についている。（肯定評価：保護者６０％、教職員５０％） 　授業の中で満足感や達成感が持てているか。（肯定評価：生徒７５％、教職員７９％） 　平日、家庭や塾で１日どれくらい学習しているか。（１時間以上：４６％） 　平日、家庭や学校で１日どれくらい読書をしているか。（３０分以上：２７％） ・学習確認プログラムの結果（京都市平均に対する指数が８０以上の教科） 　３年数学９９、理科８２、国語８０ 　２年社会８８、数学８１、 　１年国語８５　理科１０６
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 　授業改革が推進される中で、日頃の校内の授業の様子においても、４人グループで協働しながら学び合い、自ら学びに向かおうとする姿が多く見られるようになった。学校評価アンケートの「授業の中で満足感や達成感が持てているか。」では、生徒評価は前期評価から変わらずほぼ横

	ばいで保っており、教職員評価は前期比較で＋１２％である。このことから、教職員が成果を実感しながら、授業改革が安定して行われていることがわかる。またこれは、「子どもの基本的な学力が身についているか。」という質問項目の教職員の肯定評価においても令和３年度２０％、令和４年度前期３４％、後期５０％と上昇している数値からも見て取れる。これは学習確認プログラムの結果において、全市平均と比較した指数が平均７０後半であった本校において、数値的な成果が出ている教科が増えてきていることと相関している。 一方、課題としては、授業の満足度や基礎学力の定着に関して否定的意見が２５％存在し、この割合は令和３年度から改善されていない点である。原因として考えられるのは、次の２点である。１点目は学校全体での授業改革の進捗状況である。授業フレームや定期的な校内研究授業により学校体制での授業改革を図ってはいるが、学年や教科、また教員の経験値等により差が生じているという課題は依然ある。この課題は、学習確認プログラムの数値的な結果においても、同学年や同教科内においても上昇している教科と、低迷している教科の差の開きが大きくなっていることからも伺える。２点目は生徒に学習以前の基盤が整っていないことである。家庭環境など様々な要因により、生徒の主体性だけの問題ではないことは生徒実態からも見られ、本校では高い割合で一定数存在する。 また、家庭学習に関しては、単元テストへ移行して日々の家庭学習習慣が定着することを目指しているが、今回の指標からは家庭での学習状況や、読書習慣に関しても依然改善は見られず課題として残る。
	分析を踏まえた取組の改善 授業改革は日々の授業の実践と検証・改善のスモールサイクルで行われていくが、このサイクルにお互いに携わりながらチームとして協働できる体制が今後さらに必要である。来年度は、教科会を充実することや、日頃からお互いに授業を参観し合う文化を形成する取組を仕掛けたい。家庭学習の充実においては、今年度から開設した自学自習教室の活用により３年生に関しては改善がみられている。１、２年生においても自学自習教室や、水曜放課後の補充の時間を活用しながら、手立てが必要な生徒へのアプローチを今後も粘り強く行っていく。また、授業改革と併せて、指導と評価の一体を一層教員が意識した計画と実践を行うことで、本校で行っている単元テストのシステムを効果的に活用し家庭学習の充実へと繋げたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・授業改革が着実に進んでいるのを実感しました。その成果が数字でも表れてきている教科もあり嬉しく思います。 ・来年度も教職員がチームとして協働しながら「授業改革」に取り組んでいってくれることを期待します。

（２）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標 「道徳科の時間を中心にすえた「こころの教育」を充実 →「しっかり考え，正しく判断し，行動のとれる生徒」の育成
具体的な取組 ・ 道徳科を要とし，特別活動との関連を持たせた，学校教育活動全体を通して道徳教育の実践 →「学ぼうという意欲・関心」を高める。 ・ 豊かな人権感覚を育み，行動につながる人権教育の推進

→「如何に生きるべきか」「よりよい生き方とは」

・　生徒会活動を通じて，生徒たち自身によるより良い集団づくりの実践

→ 自分や他者，社会事象や物事をしっかり見つめさせる。

・　生徒理解を深め，共感的人間関係を基盤にした個に応じた指導の推進

・　自他を大切にする態度の育成

・　「公共の精神」に基づく態度を育成する

（取組結果を検証する）各種指標

・授業で課題解決に向けて自分で考え自分から取り組むことができているか。(学校評価アンケート)

・自分には良いところがあると思うか。(学校評価アンケート)

・他人を思いやり，親切にしているか。(学校評価アンケート)

・向島東中学校を誇りに思うか。(学校評価アンケート)

・ＴＰＯに応じて，望ましい言葉遣いをしているか。(学校評価アンケート)

・地域が好きか。地域の行事に積極的に参加しているか。（学校評価アンケート）

中間評価

各種指標結果

・授業で課題解決に向けて自分で考え自分から取り組むことができているか。

（肯定評価：生徒６９％）

・自分には良いところがあると思うか。　（肯定評価：生徒５９％）

・他人を思いやり，親切にしているか。(肯定評価：生徒７６％，保護者７２％，教員７２％)

・向島東中学校を誇りに思うか。　（肯定評価：生徒７０％）

・ＴＰＯに応じて，望ましい言葉遣いをしているか。

（肯定評価：生徒６６％，保護者１０％，教員１０％）

・地域が好きか。(肯定評価：生徒７４％)

・地域行事への積極的参加（肯定評価：生徒３９％，保護者４４％，教員３５％）

自己評価

分析（成果と課題）

各教科や道徳，特別活動の中で，生徒が主体的・対話的に関わり，学ぶ場面を設定して取り組んでいることで，自校が人間関係形成の要としている学校祭の中で，学年を超えて他者との関わりを深め，集団の中で自信を持って自らの思いを語る生徒の姿があった。異年齢集団で縦割り活動を多く取り入れ，経験を共有できたことが多面的な学びにつながり，学校を誇りに思う気持ちや，集団の中の自身の役割に気づき，それを果たすことができた自分自身を肯定的にとらえることにつながっていると思われる。

ただ，自分を客観的に捉え，他者や社会事象などさまざまな物事を見つめる力はまだ十分に育っているとは言えないために，場にそぐわない言動が見られることを保護者・教員ともに感じているが，生徒自身に自覚がないことが指標結果からもわかる。その点では，今後も集団や社会との関わりの中で多面的，多角的な考えに触れる機会を十分に持ち，生徒のメタ認知能力をより高める取組を意図的に行っていくことが重要である。

他者に対する思いやりは，保護者が子に望む大切な部分である一方で，生徒自身や教員は十分に行えていないと捉えている点についても，今後の教育活動の中で道徳科を要とし，特別活動との関連を持たせた，道徳教育を実践していく必要がある。

また，コロナ禍にあって以前に比べると地域・家庭での生徒の様子が見えづらくなっているこ

	とが学校評価の結果からも見とることができることから，教職員の課題として共有することが今後の取組においても重要である。
	分析を踏まえた取組の改善 　メタ認知能力を高めるべく，各教科の授業で自身の学びについて自己を適切に振り返ることができる場面を持つとともに，道徳科の学習や学級活動の中で自己を見つめる時間を充実させる。広い視点で子どものよさを認め，励ますためには，地域・家庭での生徒の姿に目を向けることが重要である。今後予定されている職場体験やクリーンキャンペーンなど地域・社会との関わりの中で，学校として生徒がどう成長していくことを期待するのか，取組の意義を再確認し，一人ひとりの生徒を地域・社会と共に見守る視点を持つとともに，生徒自身が社会の中の自分について意識する中で，自分はどうあるべきか，どうありたいかを考えることのできる場面を持つ。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 当初設定した上記指標の中でも下の２つに注目するとともに，新たな１指標を加える。 ・ＴＰＯに応じて，望ましい言葉遣いをしているか。 ・地域が好きか。地域の行事に積極的に参加しているか。 ・人の役に立つ人間になりたいと思うか。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・縦割りによる活動を通して、生徒の自己肯定感や学校を誇りに思う気持ち等が高まっていることを感じます。今後も縦割りによる活動をより充実させていってください。 ・道徳の授業が充実してきていることを感じます。生徒を地域と共に育てていくことは非常に大切なことなので、学校運営協議会として協力できることはするので、遠慮せずに相談してください。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・授業で課題解決に向けて自分で考え自分から取り組むことができているか。 （肯定評価：生徒７４％） ・自分には良いところがあると思うか。　（肯定評価：生徒６４％） ・他人を思いやり、親切にしているか。（肯定評価：生徒８１％、保護者９３％、教員８５％） ・向島東中学校を誇りに思うか。　（肯定評価：生徒８０％） ・ＴＰＯに応じて、望ましい言葉遣いをしているか。 （肯定評価：生徒７５％、保護者７６％、教員７％） ・地域が好きか。（肯定評価：生徒７７％） ・地域行事への積極的参加（肯定評価：生徒４３％、保護者３２％、教員１４％） ・人の役に立つ人間になりたいと思うか。（肯定評価：生徒８５％）	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 　縦割りの学校行事や全校道徳の取組をはじめ、人間関係形成を柱とし、すべての教育活動において生徒が主体的・対話的に関わり、学ぶ場面を意図的に設定してきた。その成果として、８割の生徒が「学校を誇りに思う」と肯定評価したことに加え、「他人を思いやり、親切にしているか。」という項目においても、生徒・教員とも８割、保護者も９割を上回る評価をしている。 　新たに加えた指標「人の役に立つ人間になりたいと思うか。」についても８５％と中間評価から増加し、安全で安心できる人間関係の中で他者との関わりが深まり、自己肯定感や自己有用感

	が高まっていると考えられる。 　しかし、「地域行事への積極的参加」の肯定評価は半数に届いていない。この地域の特徴として就学援助を受けている家庭も非常に多く、保護者自体も働いていないため「社会」とのつながりが希薄になっている家庭もある。生徒にとっても保護者にとっても、限られた人間関係の中では経験できることが限定的であり、多様な他者との関係を深める機会も乏しくなる。その中で、「公」「私」といった感覚が育ちにくい状況となっている可能性がある。「ＴＰＯに応じた望ましい言葉遣い」について、生徒、保護者ともに肯定評価が７５％程度ある一方で、教員は１０％を下回り、顕著なズレが見られたことからも、地域・社会とのつながりの希薄さが課題であることがわかる。これまでも課題だった部分に加えてコロナ禍によってつながりが減少したことが、人間関係の希薄さと、場面や状況、相手に応じて自分の思いや考えを適切に伝えることができないことと関連していると思われる。
	分析を踏まえた取組の改善 　今後の課題として、生徒が広く地域・社会と関わり、成長できる場を意図的に設け、様々な物事や他者と交わる経験を通して成長できる機会を、学校の教育活動の中で持つことが重要であると考える。子どもは地域・社会の宝であり、生徒たちもこの地の未来の担い手となっていく。「人の役に立つ人間になりたい」と思っている彼らの活動の場をその成長を地域・社会が見守る仕組みができるよう、今後の教育活動の中で道徳科を要とし、特別活動との関連を持たせた、道徳教育を実践していく必要がある。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・様々な取組や教職員の意図的な働きかけによって、生徒の自己肯定感や自己有用感が高まってきているのが分かりました。 ・今後の課題としている「地域・社会との関り」に関して学校運営協議会として協力できることがあれば遠慮せずに相談して欲しいと思います。

（３）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標 「健康保持，体力向上，より良い生活習慣」の確立
具体的な取組 ・健康診断，健康観察，保健室情報等を根拠とした健康教育の推進 ・保健体育の時間の指導を要とし，体育的行事や部活動を通して，体力や技能を高め運動することの楽しみや喜び，達成感を味わうことができる指導の実践 ・性やエイズについての基礎的な知識の理解と男女が互いに尊重し合う態度を育てるために系統的な保健指導及び連携した教科・総合的な学習の時間の指導 ・防煙教室や薬物乱用防止教室を実施すると共に，教科・領域と連携した飲酒・喫煙・薬物の有害性や危険性についての正しい基礎知識と生涯にわたっての行動の習得 ・シェイクアウト訓練等広域な訓練への参加及び防災・安全に関する指導の充実 ・新型コロナウイルス感染症対策に係る予防措置の学習と指導の実践
（取組結果を検証する）各種指標 ・平日，何時ごろに寝ているか。（学校評価アンケート）

・朝食を毎日食べているか。（学校評価アンケート）
・１日のスマホの使用時間（学校評価アンケート）

中間評価

各種指標結果 ・平日，何時ごろに寝ているか。 ２３時まで（４２％）２３時～２４時（２６％）２４時以降（３２％） ・朝食を毎日食べているか。　（肯定評価：８２％） ・１日のスマホの使用時間　２時間以上（７７％）2時間未満（１４％）３０分～１時間（６％）	
自己評価	分析（成果と課題） ２３時以降に就寝する生徒の割合は５８％で、そのうち２４時を過ぎてから就寝する生徒は３２％を占める。また１日のスマホの使用時間が２時間以上と回答した生徒は７７％と非常に高い割合となっている。深夜になってもSNSやゲームなどで多くの時間を費やし、睡眠不足となって起きれず、遅刻を繰り返す生徒が多数在籍するのは大きな学校としての課題である。 朝食を食べているという生徒は昨年度の結果とほぼ同じ状況で全体の約８割を占めている。
	分析を踏まえた取組の改善 中学時代は体の成長が著しく、健康で暮らしていくには十分な睡眠が不可欠ということを保健の授業や保健室だよりなどを通して、もっと積極的に伝えていく必要がある。スマホの使用に関しては保護者にも啓発活動を行い、親子間でルール作りをしてもらうなどの提案をしていく。 朝食に関しては、自分でも栄養バランスの取れた献立を考え、作れるような指導も行っていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・平日，何時ごろに寝ているか。 ・朝食を毎日食べているか。 ・１日のスマホの使用時間
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・睡眠時間やスマホの使用時間等に課題が見られます。その解決に向けては家庭の協力が不可欠なので家庭（保護者）への働きかけは今後も粘り強く取り組んでください。 ・生徒自らが「健やかな体」の育成に向けてしっかりと考えられるよう、今後さらに保健委員会や体育委員会などの活動を充実させ、生徒と教職員が一緒になって「健やかな体」の育成に向けての具体的な取り組みを考えてください。

最終評価

各種指標結果 ・平日，何時ごろに寝ているか。 ２３時まで（３８％）２３時～２４時（３４％）２４時以降（２９％） ・朝食を毎日食べているか。　（肯定評価：８６％） ・１日のスマホの使用時間　２時間以上（７４％）2時間未満（１９％）３０分～１時間（３％）	
自己評	分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題 ２３時以降に就寝する生徒の割合は７３％でそのうち２４時以降は２９％と非常に就寝時間が遅い結果となった。中間評価時の２３時以降の就寝率は５８％だったので、夜更かしをする生

価	徒は増加しているといえる。その理由と考えられる１日のスマホの使用時間は２時間以上と答えた生徒は７４％を占めた。また朝食に関しては毎日食べている生徒は８６％で中間評価時より４％増加した。 　深夜になってもSNSやゲームなどに熱中し、登校に間に合うための時間に起きれず、遅刻してくる生徒が多数いることは本校の大きな課題である。
	分析を踏まえた取組の改善 　基本的な生活習慣の確立、特に睡眠の大切さは強く生徒達に発信していく必要がある。これは保健の授業や保健だよりだけではなく、気になる生徒達には時間をしっかりと取って、担任が話し込む等の粘り強い働きかけが必要である。またスマホの使用に関して保護者には引き続き啓発活動を行い、親子間でルール作りをしてもらう等の働きかけをお願いしたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・睡眠時間やスマホの使用時間等に依然課題が見られますが、その解決に向けては家庭の協力が必要不可欠なので家庭（保護者）への働きかけをあきらめずに今後も粘り強く取り組んでいってください。

（４）学校独自の取組

重点目標 　　自らの未来と次代の社会を創造する児童・生徒の育成（小中一貫教育目標として）
具体的な取組 ・「主体的に学び合う授業」の実現を目指した授業改革 ・基本的生活習慣の確立を目指した生活指導 ・生徒指導の三機能を基盤とした粘り強い生徒指導 ・Oneチーム制（複数担任制）による生徒１人１人の基盤の構築 ・教科書やオリジナル地域教材を用いた道徳教育の充実 ・集団作りにおいて，対話構造を構築することによる自己肯定感や自己有用感の育成 ・総合的な学習の時間を軸とした，学びや経験を実生活，地域で生かす実践力の育成
（取組結果を検証する）各種指標 ・子どもに基本的な学力が身についているか。 ・子どもが授業の中で満足感や達成感が持てているか。 ・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることはできているか。 ・興味・関心がわき、自ら学びたいと思える授業はあるか。 ・学習効果を上げるため、教員が指導法の工夫に取り組むことはできているか。 ・自ら進んで挨拶をしているか。 ・中学生になってから、物事を最後までやり遂げてうれしかったことがあるか。 ・生徒が主体となった生徒会活動が行えていると思うか。 ・学校が人権を大切にした教育活動を行っているか。 ※上記すべての指標は学校評価アンケートに基づくものとする

中間評価

各種指標結果

・子どもに基本的な学力が身についているか。（肯定評価：保護者 66%，教員 34%）

・子どもが授業の中で満足感や達成感が持てているか。
（肯定評価：生徒 74%，保護者 66%，教員 67%）

・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることはできているか。
（肯定評価：生徒 67%）

・興味・関心がわき、自ら学びたいと思える授業はあるか。（肯定評価：生徒 72%）

・学習効果を上げるため、教員が指導法の工夫に取り組むことはできているか。
（肯定評価：保護者 70%，教員 90%）

・自ら進んで挨拶をしているか。（肯定評価：生徒 77%，保護者 66%，教員 29%）

・中学生になってから、物事を最後までやり遂げてうれしかったことがあるか。
（肯定評価：生徒 81%）

・生徒が主体となった生徒会活動が行えていると思うか。（肯定評価：生徒 74%）

・学校が人権を大切にした教育活動を行っているか。（肯定評価：保護者 88%，教員 90%）

自己評価

分析（成果と課題）

今年度特に重視している具体的な取組は「主体的に学び合う授業」の実現を目指した授業改革である。その視点で各指標の結果を見てみると、多くの教員が指導法の工夫に取り組むことができ、子どもは授業の中で満足感や達成感が得られているということが表れている。また「興味・・関心がわき、自ら学びたいと思える授業はあるか」ということについては約 72%が肯定的な評価をしており、主体的に学び合える授業を多くの生徒が実感できていると思われる。

しかし「話し合い活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができているか」に関しては 67%の肯定的評価にとどまっているので、各授業においての課題設定を検討していくことが大切である。（スモールステップの課題からジャンプ課題への設定に変えていく。）

また「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがあるか」については 81%が肯定評価を行っており、この理由の一つには学校祭体育の部や音楽の部で縦割り活動を取り入れ、仲間同士で支え合い、最後までがんばりきれた経験によることが挙げられる。

分析を踏まえた取組の改善

中間評価で学校としての具体的な取組については、一定の良い結果が見られているので、これからの下半期についても、夢現プロジェクトを軸とした様々な仕掛けを展開していく。また「基本的な学力が身についているか」に関しては昨年度同様に教員の肯定評価が低いので、教科会をさらに活性化させ、低位層の生徒達をどのように引き上げていけばよいかを検討し、具体的な実践に結びつけることが必要である。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

当初設定した上記指標の中，新たな１指標を加える。

・教員が子どもの学力や努力を適切に評価すること

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・今年度特に重視して取り組んでいる「主体的に学ぶ授業」の実現を目指した授業改革が、確実に進んできており、その成果が出ていると思います。 ・One チーム制（複数担任制）が上手く機能しているようで、教職員の雰囲気もとても良さそうな印象を感じました。 ・授業での課題設定については、「生徒が考えたくなる課題」となるよう今後も研修を深めて欲しいと思います。

最終評価

	各種指標結果 ・子どもに基本的な学力が身についているか。　（肯定評価：保護者 60%，教員 50%） ・子どもが授業の中で満足感や達成感が持てているか。 （肯定評価：生徒 75%，保護者 57%，教員 79%） ・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることはできているか。 （肯定評価：生徒 76%） ・興味・関心がわき、自ら学びたいと思える授業はあるか。　（肯定評価：生徒 74%） ・学習効果を上げるため、教員が指導法の工夫に取り組むことはできているか。 （肯定評価：保護者 59%，教員 100%） ・自ら進んで挨拶をしているか。　（肯定評価：生徒 87%，保護者 72%，教員 43%） ・中学生になってから、物事を最後までやり遂げてうれしかったことがあるか。 （肯定評価：生徒 84%） ・生徒が主体となった生徒会活動が行えていると思うか。　（肯定評価：生徒 77%） ・学校が人権を大切にした教育活動を行っているか。　（肯定評価：保護者 76%，教員 100%） ・教員が子どもの学力や努力を適切に評価すること　（肯定評価：保護者 83%，教員 85%）
自己評価	分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題 授業改革の指標ともなる「子どもが授業の中で満足感や達成感が持てているか」「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることはできているか」「興味・関心がわき、自ら学びたいと思える授業はあるか」について、生徒の肯定的な回答が中間評価と比べるといずれも上昇していた。特に「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることはできているか」については中間評価では６７％の肯定評価が７６％まで上昇している。また「学習効果を上げるため、教員が指導法の工夫に取り組むことはできているか」について教員の回答は中間評価では９０％だったが１００％という結果となった。これは授業研究を年に４回実施するなどの積極的な取組の成果であり、授業改善を通して生徒達は「主体的・対話的で深い学び」を実感できていると言える。 また今年度は全校縦割り活動を昨年度より増やし、異年齢集団による「つながり」を意識して取組を行った。特に向東祭（学校祭）による縦割り活動は生徒・教職員のみんなで大きな達成感を味わうことができた。これは「中学生になってから、物事を最後までやり遂げてうれしかったことがあるか」に対して生徒達は８４％（中間評価８１％）という高い肯定評価につながる要因と思われる。

	分析を踏まえた取組の改善 　生徒や教員の各種指標結果は良好であったが、保護者に関しては結果を検討する必要性がある。例えば「学習効果を上げるため、教員が指導法の工夫に取り組むことはできているか」の項目では中間評価では７０％の肯定評価が５９％になるなどの減少傾向が見られた。そしていずれの項目についても「わからない」という回答が多かった。この原因は授業の様子や日頃の学校の取組を効果的に発信できていないことが考えられる。次年度は授業参観やホームページ等を通して積極的に学校の様子を発信していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・各種指標結果に表れているように、今年度向島東中学校が重視し取り組んできた成果が少しずつ出てきているのを実感しました。 ・保護者への働きかけについても次年度の取り組む方向をしっかりと確認できていると思います。実現に向けて頑張ってください。

（５）教職員の働き方改革について

重点目標 　教職員一人一人がいきいきとした姿で子どもと向き合い，心豊かな生活を送る時間を確保する。
具体的な取組 ・学校行事を精選する。 ・複数担任制を導入し，業務の分担と効率化を図る。 ・会議を精選，効率化する。 ・電話対応時間を午後６時３０分までとし，以降は代理応答に切り替える。 ・校内 OJT を通じて若手教員を重点的に支援する体制を整える。
（取組結果を検証する）各種指標 ・教職員の勤務時間。 ・年休取得率 ・若手教員を対象とした校内研修の実施回数

中間評価

各種指標結果 ・教職員の勤務時間　45 時間超　4 月 12 名，5 月 11 名，6 月 12 名，7 月 8 名，9 月 11 名 （＊昨年度 4 月１４名，5 月１０名，6 月１５名，7 月１０名，9 月１０名） うち 80 時間超 4 月 3 名，5 月 0 名，6 月 3 名，7 月 1 名，9 月 1 名 （＊昨年度 4 月 6 名，5 月 2 名，6 月 7 名，7 月 3 名，9 月 1 名） うち 100 時間超 4 月 2 名，5 月 0 名，6 月 0 名，7 月 0 名，9 月 1 名 （＊昨年度 4 月 1 名，5 月 0 名，6 月 1 名，7 月 0 名，9 月 0 名）	
自己評価	分析（成果と課題） 　昨年度に比べ，４５時間を超える人数が減少，また８０時間を超える教職員も確実に減少している。このままの状況を安定して継続するため，教職員の意識向上と計画的な業務遂行をする。
	分析を踏まえた取組の改善 　昨年度から取り入れた「複数担任制」の定着により担任業務を分担し，臨機応変に対応することが増加している。これにより効率よい業務遂行へとつながった。今年度，新たな学校行事の形

	態を取り試行錯誤の取り組みに対して教職員間の振り返りをしっかりと行い，さらなる改善に活かしていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 教職員の勤務時間
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・教職員の超過勤務時間の実態も少しずつ改善されているように感じました。 ・「働き方改革推進委員会（スマイル員会）」の設置は、教職員自身が働き方改革に向けてボトムアップで考え実践できる良い委員会だと思います。 ・教職員の超勤時間が減少することはもちろん大事ではありますが、単に超勤時間を減少させることだけを目標とせずに、教職員一人一人が精神的な負担が少なく勤務できるよう、管理職は「教職員一人ひとりを大切にした学校運営」を継続していってください。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果								
教職員の勤務時間	45 時間超	10 月	11 人	80 時間超	0 人	100 時間超	0 人	
	45 時間超	11 月	10 人	80 時間超	0 人	100 時間超	0 人	
	45 時間超	12 月	7 人	80 時間超	0 人	100 時間超	0 人	
	45 時間超	1 月	5 人	80 時間超	1 人	100 時間超	0 人	

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 10 月～11 月にかけては行事が多くあり、超過勤務につながった。１２月～2 月にかけては業務改善や効率を考えた取り組みを全員が意識することにより、80 時間以上の超過勤務はほとんどなく、全体的に 45 時間超えの人数もより一層、減少した。しかし、60 時間越えが依然として一定数見られ、今後の目標とする 45 時間以内について、現状のままでは全員がクリアするには難しい側面も再確認できた。年度当初の取り組みや行事が重なる時期を考慮し、年間行事計画の見直しや各分掌・担当者への仕事量の偏りなどバランスのとれた組織マネジメントを推進していきながら、個々の課題も整理し改善につなげていく。 教職員の年休取得率については前年よりも増加傾向にある。互いに働きやすい環境つくりを推進していくために、各自が計画的な業務遂行をより意識できたことや、働き方改革推進委員会が機能したことで、全体として年休取得が推進された。これまで以上に休暇の取りやすい雰囲気を大切にしながら、協力体制を再構築することにより、教職員１人１人のモチベーションアップを定着させていく。また、個々の見通した業務計画をチームとしても習慣化していく。
	分析を踏まえた取組の改善 年間行事計画を踏まえ、分掌や係といったチームの企画運営がスムーズにいくよう、見通しを持ち進めていくことが大切であり、一部の教職員に負担が大きくかからぬようにする。超過勤務 45 時間以内を目標にすると例えば、部活動の休日活動時間を月平均８～１０時間の場合、平日では１日１時間以内となるため更なる業務効率をしていかなければならない。そして、教育活動の全般において生徒指導対応にかかる時間の軽減が今後もよりポイントとなるため、日頃のコミュニケーションや生徒理解の積重ねなどを大切に行い、問題行動の未然防止に努める。また、実現していくために学年シフトのみならず、縦割り活動の経験を活かした教職員チーム全体での関

	わりや対応を進めていく。時間効率は非常に重要な課題であるが、生徒のために大切なことは何かという視点を常に忘れず今後もチームで対応していくこととする。 　働き方改革は本校だけや自分自身の課題だけではなく、今後も教育現場を維持し、さらに推進していくために次世代の人材育成が大きくかかわっていることも教職員がさらに意識するようにしていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・働き方改革が進められているのを実感しました。 ・次年度も継続して取り組んでください。

（６）いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標 　教職員間での情報共有を徹底し，いじめの早期発見に努める
具体的な取組 　「学校いじめの防止等基本方針」に同じ
（取組結果を検証する）各種指標 ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し，組織的対応に努めている。(学校評価アンケート) ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。 ③ いやな思いをせず学校生活を送れている。(学校評価アンケート) ④ 生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。(学校評価アンケート) ⑤ 保護者や学校運営協議会等に，学校いじめ防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。

中間評価

	各種指標結果 ・全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し，組織的対応に努めている。 →　肯定評価：教員　９０％ ・いやな思いをせず学校生活を送れている。→肯定評価：生徒　７７％ ・生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。 →　肯定評価：教員　８５％
自己評価	分析（成果と課題） 　いじめは生徒の心を深く傷つけ、時には自ら尊い命を絶ってしまうほどの大きな事案であるということを会議や研修を通して教職員には周知している。また対応は組織としての動きが重要であることも日頃から確認し合っている。生徒や保護者からの訴えや相談に対しては忙しくても真摯に耳を傾け、解決策を共に考えていこうとする姿勢は多くの教職員に見受けられる。 　生徒によるアンケートで「いやな思いをせず学校生活を送れている」という問いには約 77%の

	生徒達が肯定評価をしているが、一方で約 15%の生徒達は否定的な回答をしている。生徒達全員がいやな思いをせず学校生活が過ごせるためにはどうしていけば良いかをしっかりと考えていくことが必要である。
	分析を踏まえた取組の改善 ・組織的な対応ということで「いじめ対策委員会」の充実。 ・生徒の訴えである「いじめアンケート」や「クラマネ」などの結果を迅速に集約し、対応を丁寧に行っていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し，組織的対応に努めている。 ・いやな思いをせず学校生活を送れている。 ・いじめにあったとき、あるいは目撃したとき、だれかに相談することができますか。 ・生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。 ・学校がいじめに対して適切に取り組むこと
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・「いじめ」は必ず起こりますが、その際に「どう取り組み解決していくか」が非常に大事だと思います。教職員間での「報・連・相」をしっかりと行い全教職員で「いじめの防止」に向けて引き続き取り組んでください。

最終評価

	各種指標結果 ・全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。 →　肯定評価：教員　98% ・いやな思いをせず学校生活を送れている。→肯定評価：生徒　84% ・いじめにあったとき、あるいは目撃したとき、だれかに相談することができますか。 →肯定評価：生徒　67% ・生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。 →　肯定評価：教員　98% ・学校がいじめに対して適切に取り組むこと　→肯定評価：保護者　63% ＊「わからない」35%
自己評価	分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題 年度当初の補導部会やいじめ対策委員会では「いじめ」について感度をあげることを確認し合った。特に「生徒間トラブル」で上がってきた事案については丁寧に係会で検討し、「いじめ」として取り扱うことも多くあった。また「いじめアンケート」や「クラマネ」に関しての対応や分析も各学年丁寧に行い、互いに情報共有ができていた。その後の生徒への聴き取りや保護者への連絡も迅速で組織的対応ができていた。 ただし「いじめにあったとき、あるいは目撃したとき、だれかに相談することができますか」についての肯定評価は 63%にとどまっている。困った時や苦しい時、誰かに相談することの大切さを生徒達には伝えることが重要である。また教職員も生徒達から信頼される存在になるようこれからも様々な関わりの中で努力していく必要がある。

	分析を踏まえた取組の改善 「だれかに自分の気持ちを聞いて欲しい」という生徒の思いを大切に受け止められるシステムを考えていく。例えば教育相談は担任が行っているが、自由度を高めて相談したい先生を生徒が選択する等のことも積極的に検討していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・教職員間での「報・連・相」がしっかりと行われていると感じました。 ・今後も全教職員で「いじめの防止」に向けて引き続き取り組んでください。